生涯学習関連施設 業務評価シート

地域学習センター　　施設名/足立区興本地域学習センター・図書館・体育館

【評価対象年度】令和7年度　【自己評価】令和8年4月9日　【評価委員会】令和8年8月17日
【評価点】水準を大きく上回る：5点　水準を上回る：4点　水準どおり(水準クリア)：3点
水準を下回る：2点　水準を大きく下回る：1点

大項目	中項目	確認項目		評価点×2		
		協定や事業計画に沿って適切に管理が行われているか(評価点×2)		指定管理者	担当課	評価委員会
1 管理状況	A 適切な管理の履行	1	施設運営業務等が適正に実施されている ◆計画どおりの開館、利用者対応、予約受付　など	5.0 (×2)	5.0 (×2)	22.0 (満点30点)
		2	職員の勤務状況・体制が適切である ◆適正な人員配置　など	3.0 (×2)	3.0 (×2)	
		3	人材育成の取り組み（意識、接遇の向上） ◆定期的な業務実施手順見直し、研修の実施　など	3.0 (×2)	3.0 (×2)	
		指定管理者記入欄	【アピールポイント】図書館およびセンター双方の業務マニュアルを整備し、業務方法の統一を図った。また、不測の事態を想定した代替対応研修により、受付対応や開館準備等の基本業務の相互習得を進め、円滑な業務運営体制を構築した。また新システムへの移行にあたり、導入に伴う混乱を防止し、利用者への影響を最小限に抑えるため、9月から1月の休館日に全職員を対象として新システム（施設・講座・チケット）の操作研修を実施した。あわせて、指定管理者が準備したPCを開館中にカウンターへ常設し、随時トライアル環境で実際の操作が行える体制を整備した。その他、障がい者への接客サービス向上を目的とし、車椅子利用者がトレーニングルームを安全に利用できるよう、受付マニュアルの整備や階段昇降機研修の実施、トレーニングルームのレイアウト変更を行った。トレーニングルームが2階にあるにも関わらず、エレベーターがないという環境でも動線とスペースを確保し、安心して利用できる環境を整備した。			
			【改善すべき点･課題等】新システムについては、職員間で習熟度に差が見られ、特に施設予約とチケット処理の操作に不慣れな職員が一部に見られる状況である。このため、引き続き操作研修や実務に即した演習を実施するとともに、日常業務における0JTを通じて理解の定着を図り、全職員の操作習熟度の向上を推進する。			
		区記入欄	【特記事項】項目1について施設特性上、一部の施設を使用できない方がいる点に着目し、利用者に配慮した各種取り組みにより、誰でも快適に施設設備を使用できる環境づくりに努めたことを評価して水準点に2点加点する。また新システムについて、利用者への安定した接客サービスのための取り組みも評価する。			
		評価委員記入欄	【評価すべき点】車いすユーザーが安心して利用できる動線確保などの受け入れ体制の整備や新システム（施設・講座・チケット）移行に向けた計画的な研修など、体制づくりが着実に進められている点を評価する。 【改善すべき点】 【その他注意点】			
	B 安全性の確保	**施設の安全性は確保されているか**		評価点 指定管理者	担当課	評価委員会
		1	施設・設備の点検が計画通り行われ、不具合等に適切に対応している ◆日常点検、定期点検の実施、不具合発生時の対応　など	5.0	4.0	14.0 (満点20点)
		2	施設・設備の経年劣化に対応している ◆設備状況の把握、改修・修繕提案　など	3.0	3.0	
		3	利用者が快適に利用できるよう、施設の管理が適切に行われている ◆日常清掃、定期清掃の実施、外溝・駐車場の管理　など	3.0	3.0	
		4	危機管理（防災・防犯・事故対応）が適切に行われている ◆防火管理者、防火管理計画、防災訓練の実施、鍵の適正管理 マニュアルの策定と周知　など	5.0	4.0	
		指定管理者記入欄	【アピールポイント】仕様書外の日常点検や清掃の質を高め、季節や利用状況に応じた機器清掃を管理する台帳を整備し、安全で快適な利用環境の維持に努めた。あわせてヒヤリ・ハット記録シートを作成・運用し、潜在的リスクを可視化・共有するとともに、事例検討による原因分析と予防策の蓄積を通じて、事故の未然防止と危機管理体制の強化を図った。			
			【改善すべき点･課題等】丁寧な施設運営を心掛け、予防保全に努めることで、施設や設備の長寿命化を図り、利用者が安心・安全に施設を利用できるようにしていく。			
		区記入欄	【特記事項】項目1について、設備清掃を目的とした台帳の作成や仕様書外の点検・清掃の実施を評価し、水準点に1点の加点とする。設備内の埃が溜まっていた現状について、定期点検の作業方法が適切であるか、よりこまめに日常清掃が必要か確認して欲しい。項目4について、職員から聞き取ったヒヤリハット事例をまとめた資料をもとに、センター内で対策方法を話し合った。職員間の危機管理意識を高めた点で水準点に1点の加点とする。			
		評価委員記入欄	【評価すべき点】設備清掃を目的とした台帳の作成や、ヒヤリハット事例をまとめ、職員間の意識を高めた点を評価する。落下の恐れがある展示絵画への対応も迅速だった。作成したヒヤリハット記録シートは、職員の気づき・意識向上のきっかけになることを期待する。 【改善すべき点】設備内の埃がかなりの量であったため、再度確認していただき、こまめな日常清掃などを行ってほしい。 【その他注意点】			

	C 法令等の遵守（※倫理性も含む）	**個人情報保護､各種法令等は遵守されているか**		評価点		
				指定管理者	担当課	評価委員
		1	個人情報保護の取り組み ◆内部規定の策定、研修の実施　など	5.0	4.0	10.0 （満点15点）
		2	個人情報事故への対応、適正管理 ◆個人情報に関する事故が発生しなかったか	3.0	3.0	
		3	各種法令等の遵守 ◆労働基準法、公契約条例等の関係法令は遵守されているか	3.0	3.0	
		指定管理者記入欄	【アピールポイント】個人情報保護と法令遵守を重要事項と位置づけ、全職員が高い意識を持って業務に取り組んでいる。不要な個人情報は速やかにシュレッダー処理を行い、必要以上の情報を収集しない運用を徹底している。また、個人情報を含む書類の持ち出しには、管理簿に加えてAirTagによる所在確認を導入し、紛失防止と管理強化を図っている。さらに、内部規定の整備や職員研修を継続的に実施し、事故防止と適正管理に努めている。			
			【改善すべき点･課題等】個人情報の保護および法令遵守は、公共施設従事者として区民ならびにあらゆる関係主体からの信頼を確保する上で極めて重要な要素であると認識し、職員の理解促進および研修の実施に努めるとともに、適切な施設運営に取り組んでいる。			
		区記入欄	【特記事項】項目1について、同じ指定管理者が管理するセンターが導入した位置情報が把握できる小型発信機を自センターでも取り入れた。個人情報を保護する取り組みではないものの、個人情報を持ち運ぶことに対する危機管理意識を強めた点で水準点に1点の加点とする。また、日頃の業務において個人情報漏洩の危険性を意識し、職員全員で個人情報保護及び法令各種の遵守に努めている点も評価する。			
		評価委員記入欄	【評価すべき点】発信機を活用した個人情報持ち出し時の所在管理など、他の施設を参考に、個人情報漏洩に対する危機意識を高めている点を評価する。個人情報保護の遵守を意識して恒常化させようとしている点も評価に値する。 【改善すべき点】 【その他注意点】			
	D 適切な財務・財産管理	**適切な財務運営・財産管理が行われているか**		評価点		
				指定管理者	担当課	評価委員
		1	適正な財政状況及び経理処理を行っている ◆令和7年度収支　(3,112千円) ◆経理の明確な区分、経理担当者の配置、帳簿、関係書類の整備　など	3.0	3.0	3.0 （満点5点）
		指定管理者記入欄	【アピールポイント】事業場での現金管理表および出納簿の記録・確認は、経理担当者だけでなく全責任者が責任をもって実施している。各自の確認とチェックを通じて、日々の現金の動きを正確に把握し、適正かつ安全な出納管理を徹底している。			
			【改善すべき点･課題等】運営コストの増加を日々感じる中、必要な部分は効率化を図りつつ、本社と連携しながら、利用者にとってより価値あるサービスの提供を目指していく。			
		区記入欄	【特記事項】入出金事務について、間違いのない適正な受付体制を築いている。また利用者へのサービスにおいて重要なことを精査し、効率よく、また多様な事業を展開している点についても評価する。			
		評価委員記入欄	【評価すべき点】必要な業務を精査し、効率的かつ多様な事業展開を行っている点を評価する。 【改善すべき点】 【その他注意点】			

大項目	中項目	確認項目				
2 事業効果	A 学習事業の取り組み	**仕様書や事業計画に沿った学習事業が提供されているか**		評価点 指定管理者	担当課	評価委員
		1	利用促進に向けた取り組み（広報・PR等） ◆ホームページ、ＳＮＳ、ミニコミ紙の充実、外部媒体の活用 など	3.0	3.0	16.8 （満点20点）
		2	A型事業（基本的な生涯学習事業）の企画・実施・成果 ◆Ａ型事業の企画・実施・成果	5.0	5.0	
		3	B型事業（重点事業）の企画・実施・成果 ◆B型事業の企画・実施・成果	5.0	4.0	
		4	C型事業（拡張事業）の企画・実施・成果 ◆C型事業の企画・実施・成果	5.0	5.0	
		指定管理者記入欄	【アピールポイント】ミニコミ紙では、地域情報の紹介にとどまらず、地域団体と連携した講座の企画・案内やクーポン掲載を行うことで、参加や施設利用へとつながる実践的な広報を実施した。さらに3事業（フルート、バイオリン、ピアノ）の合奏発表会、手話教室、図書館休館日の学習スペースなどの各事業を通じて参加者の拡大と利用促進を図った。合奏発表会では演奏技術の向上と参加者間の交流促進、手話教室ではデフリンピックの認知向上と新規参加者の獲得、図書館休館日の学習スペースではほぼ毎回満席となる利用実績を上げるなど、それぞれ具体的な成果を創出した。これらの取組により、多様なニーズに対応したサービスの充実と利用促進を図った。また、令和6年度にミニコミ紙で誤植が発生したことを踏まえ、運用を改善した。開催5ヶ月前までに講師と打ち合わせを徹底し、内容をメールで送付するとともにBCCで責任者へ共有した上で、各担当が企画書を作成する。作成後は企画書と講座情報を初校から4校まで回覧し、複数の目で確認する体制を整えた。その結果、令和7年度は誤植の再発はなく、校正精度の向上と再発防止につながった。			
			【改善すべき点･課題等】区が推進する事業および既存参加者のステップアップを意識した事業や予備知識のある方を対象とした事業の実施件数が少ない状況であるため、今後は利用者の関心やニーズを踏まえた企画を検討・実施し、事業の活性化と利用促進につなげていく。これにより、従来あまり利用されていなかった分野にも関心を広げ、新規利用者の獲得や既存利用者の満足度向上を図ることを目指す。			
		区記入欄	【特記事項】項目1について、令和6年度ミニコミ紙に誤植が生じた。講座を企画する際の手順変更など、誤植予防策に施設全体で取り組み、令和7年度は広報物の誤植が見られなかったとして改善したとする。項目2について、手話の実践的要素と大会の歴史などの学習的要素を組み合わせた手話教室の実施は、デフリンピックの認知向上および参加者への質の高い学習機会の提供に大きく寄与したとして水準点に2点の加点とする。周知方法の更なる工夫に期待する。項目3について、図書館休館日の際に館内のレイアウトを都度変更することで、子どもの学習スペースを作り出し、学習促進に寄与したことを評価する。一方で、休館時に代替スペースを設けることは想定内の対応であるため、水準点に1点の加点とする。項目4について、多様な楽器講座を提供していたという利点を生かし、講座の垣根を超えたフルート、バイオリン、ピアノの合奏発表会を行うことで、講座参加者のモチベーションや技術向上に努めた点で水準点に2点加点する。			
		評価委員記入欄	【評価すべき点】デフリンピック開催に向け、手話教室を開催することで、デフリンピックの認知向上に寄与した。また講座の垣根を越え、音楽講座参加者を発表会までに結びつけた点や創意工夫により子どもの学習スペースを確保し、また多くの子どもに利用された点を評価する。また令和6年度減点となったミニコミ紙の誤植は、校正手順の見直しにより令和7年度は発生しておらず、改善が確認できた。 【改善すべき点】手話教室は意義ある企画だが参加者は6名にとどまっており，周知方法の工夫を期待したい。また利用者のニーズを反映した事業の設定に期待する。 【その他注意点】子どもの学習スペースについては今後も工夫により確保してほしい。			

			評価点		
		施設・地域特性に配慮し、適切な学習支援を行っているか	指定管理者	担当課	評価委員
B 学習支援の取り組み	1	生涯学習コーディネート、サークルや個人利用者への支援の実施・成果 ◆学習相談、支援事業の実施、発表の場の提供・拡充　など	5.0	5.0	15.0 （満点15点）
	2	区内施設、団体との連携 ◆地域団体、区内施設との連携　など	5.0	5.0	
	3	地域特性の配慮、人材の活用 ◆区内人材活用、地域資源の発掘、ボランティア活用　など	5.0	5.0	
	指定管理者記入欄	【アピールポイント】重症心身障がい児支援施設との新たな連携を開拓し、当館主催講座の講師によるフルートミニコンサートを実施。生涯学習として、多様な文化体験の機会提供に努めた。また、在住外国人利用者のサービス向上と安全・快適な利用環境の整備を目的として、体育施設個人利用案内の英語版・中国語版を作成し、利用ルールの周知徹底により安心して利用できる環境を整えた。さらに、日本語ボランティア教室「こんぱす」と連携し、外国にルーツを持つ子ども向けに紙芝居や折り紙を用いた日本文化体験講座を実施し、想定を上回る12名の児童と保護者が参加するなど、多文化共生の推進と地域人材の活用に成果を上げた。ロビーのグランドピアノを活用した「街角ピアノ」では地域演奏者を発掘し、年4回・延べ10組以上の出演によるコンサートを実施、重複回避や抽選制の導入により多様な区民に演奏機会を提供し、学びの還元と交流の場を創出した。			
		【改善すべき点･課題等】長く活動してきた団体のなかには、高齢化などの諸事情により、活動を縮小したり一時的に休止したりする場合が見受けられる。こうした状況に対して、センターではサークルへの新規参加を促進するため、センター主催のサークル体験会を案内しているが、実際に活用する団体は少ない。今後も登録団体と密に連絡を取りつつ、必要に応じてこうしたサークル体験の機会を提供していく。			
	区記入欄	【特記事項】項目1について、多言語版の施設個人利用案内冊子の作成は在住外国人への支援および施設利用団体への活動支援の2つの観点において効果があったとして水準点に2点の加点とする。項目2について、重度心身障がい児支援施設にて、楽曲や演出を工夫した音楽鑑賞の場を提供することで地域児童の音楽への関心を高めた実績を評価し、水準点に2点の加点とする。項目3について、地域の演奏者を発掘し、またコンサートという形で鑑賞者と演奏者に繋がりを持たせた事業は、演奏者の成果披露だけでなく、近隣住民が気軽に音楽鑑賞ができる機会の提供にもつながったとして水準点に2点加点する。			
	評価委員記入欄	【評価すべき点】翻訳版利用案内冊子の協働作成や街角ピアノからの演奏者発掘など、区民・在住外国人の参画を生かした支援が展開されている。地域イベント「らんちゅう品評会」の支援など、地域に根付いた取り組みをして成功している点や、重度障がい児支援施設へのアウトリーチコンサートを実施し、児童に多様な文化体験を提供した点を評価する。 【改善すべき点】登録団体と連絡を密にとり、活動休止や減少に歯止めをかけるよう何らかの対策に期待する。 【その他注意点】			

			評価点		
C 図書館事業の取り組み	**仕様書や事業計画に沿った図書館事業が提供されているか**		指定管理者	担当課	評価委員
	1	図書館の館内配置の工夫やPR活動の企画・実施・成果 ◆館内配置の工夫、レファレンスサービスの企画・実施・成果　など	5.0	5.0	10.0 （満点10点）
	2	読書推進活動の企画・実施・成果 ◆読書推進活動、連携事業の企画・実施・成果　など	5.0	5.0	
	指定管理者記入欄	【アピールポイント】居心地のよい空間づくりとして、赤ちゃん連れの利用者が安心して図書館を利用できるよう常時赤ちゃんタイムとし、絵本コーナーに手作りビジーボード（子どもの手先の発達を促す知育玩具）や遊べる壁面装飾を設置した。足立ゆかりの人と作品コーナーの常設棚を設置し、足立区の魅力を発信した。読書推進事業としては、学習センター全来館者を対象にロビーエントランスでフルートコンサートを行い、本の紹介や投票イベントを開催した。また、小学生向けにはパスファインダーをリニューアルし、ティーンズ世代向けには職場体験プログラムに読書会を取り入れた。			
		【改善すべき点･課題等】 今後の足立区立図書館は物音や話し声も気にすることなく利用できる居場所として期待されているが、一方で閲覧席のペンの音が気になるという図書館に静寂を求めるご意見もいただいている。今後は両者が共存できるような図書館環境を作っていくことが課題である。			
	区記入欄	【特記事項】項目1について、学習センターエントランスへの図書館パネルの設置や、赤ちゃんタイム拡充・手作りおもちゃの設置により、図書館利用の促進や、居心地の良い空間の提供に寄与している点を評価し、水準点に2点の加点とする。項目2について、児童養護施設でのマルシェへの出店やティーンズ読書会などにより子どもの読書への興味喚起につながっている点を評価し、水準点に2点加点する。			
	評価委員記入欄	【評価すべき点】親子世帯利用の拡大を目的とした館内装飾などの取り組みや、読書への興味を引くパネル展示など、参加型・独自性のある事業が多く、特集棚の貸出率も高い。「足立ゆかりの人と作品」のパネル展示によるセンターから図書館への誘導も効果的だと考える。 【改善すべき点】図書館に静寂を求める意見とコミュニケーションもできる場所としての期待の意見の両方がある点について、うまい共存の在り方を検討してほしい。 【その他注意点】			

			評価点		
D 利用の状況	**適切な利用状況となっているか （環境の変化など外部要因を考慮）**		指定管理者	担当課	評価委員
	1	学習施設・体育館等の利用状況が基準を達成している ◆利用率の基準値超 利用率基準値/学習施設45%、体育館88% ＜参考＞学習施設目標値　56.5%（前年度利用率＋3%）	3.0	3.0	8.0 （満点10点）
	2	図書館の利用者数及び貸出冊数が基準を達成している ◆利用者数・貸出冊数の基準値超 利用人数（165,165人）　※基準値/158,380人 貸出冊数（209,368冊）　※基準値/209,162冊	5.0	5.0	
	指定管理者記入欄	【アピールポイント】 （センター）利用率は令和6年度から増加している。増加要因としては、柔軟な施設の予約を行っていること（例：学習室を空手やボクシングの練習場所として使用）や、空き室を活用した講座の開催によるものと考えている。これにより、利用者がより多くの時間帯や場所で学習活動を行える環境が整えられ、利用率の向上につながっていると推察する。 （図書館）エントランスロビーで音楽コンサートと連動したブックトークを実施し、誰でも参加できる「パンVSごはん」「そばVSうどん」などの投票イベントを関連本の特集棚と併せて行ったことで、来館者数が増加した。また、児童養護施設で開催されたヴィレッジ・マルシェに赴き、工作教室と移動図書館を実施し、小さな子どもたちには簡単な絵本の読み語りを行った。			
		【改善すべき点･課題等】 （センター）来年度も引き続き、柔軟な施設予約や新たな講座の企画・開催を通じて、学習施設の活用と利用率向上を目指す。特に、平日の午後に空きがあるため、区民のニーズに応じた講座を企画する。 （図書館）貸出数の増加を目的とした新たな施策として、学習センターの廊下に特集棚を設置し、「図書館ギャラリー」を開設する。本施策により、これまで図書館を利用していなかった利用者への関心喚起を促し、新規利用者の獲得および利用促進につなげる。			
	区記入欄	【特記事項】項目1について、利用者のニーズに合わせた貸出施設案内や多数の講座の開催など柔軟な管理運営により、令和6年度より0.9%ほど利用率を向上させている点を評価する。一方で、目標値である56.5%には届いていないため、更なる指定管理業務の工夫に期待する。項目2について、利用者前年比増加率及び貸出冊数前年比増加率ともに加点基準を達成したため、2点の加点とする。			
	評価委員記入欄	【評価すべき点】学習施設・体育館とも利用率が基準を上回っている。また利用者ニーズに応じた多数の講座開催により、図書館の利用人数、貸出冊数ともに基準値を超えている他、改善すべき課題を明確にしている点を評価する。 【改善すべき点】学習施設の利用率について、令和6年度から向上したものの目標値に届いていないため、更なる工夫をお願いしたい。貸出冊数に関しても基準を達成したものの令和6年度実績・過去3年平均を下回っており、回復に向けた取り組みを期待する。明確にした改善点については実現化に期待する。 【その他注意点】			

			評価点		
E　3分野連携事業	**3分野連携事業を計画通り実施しているか**		指定管理者	担当課	評価委員
	1	3分野連携事業が適正に実施されている ◆「関心喚起」「行動生起」「習慣化」の3種のプログラムの実施 ◆動機づけのための情報発信（プッシュ型情報発信）をしているか　など	5.0	5.0	5.0 （満点5点）
	指定管理者記入欄	【アピールポイント】絵本出版社元社長による育児と読書講演会およびモルモットお話会など、他センターでは実施していない独自性のある3分野連携事業を企画し開催した。講演会では育児や読書に関する知識に触れる機会を提供し、お話会ではモルモットを通して生き物への関心を高める内容とした。いずれの事業も企画内容がターゲット層のニーズに合致しており、コアターゲットである子育て世代と子どもが一緒に楽しみながら学べるプログラムとして実施した。			
		【改善すべき点･課題等】令和7年度のぷち友登録者数（3分野連携事業LINE登録者）はあまり伸ばすことができず、十分な成果を得る機会を逃してしまった。多くの人に情報を届けるには、接触する対象を増やすことが不可欠である。そのため、来館者への声掛けを増やすなど、能動的に行動して登録促進につなげたい。			
	区記入欄	【特記事項】絵本出版社関係者による講演会や足立区生物園と連携したモルモットとのふれあい時間を組み込んだおはなし会など、独創的な取り組みにより、利用者が本に親しむ契機を創出したことが評価に値する。児童養護施設のイベントに移動図書館として参加するなどこれまで来館経験がなかった子育て世代の新規顧客の獲得を図った点も含め、水準点に2点の加点とする。			
	評価委員記入欄	【評価すべき点】児童養護施設で実施されるイベントに移動図書館として参加するなど、他では見られない独自性のある活動により普段図書館を利用しない層への働きかけを行った点を評価する。体験を読書につなげる設計も良い。 【改善すべき点】移動図書館の貸出目標は未達であり，出張先での貸出につなげる工夫を検討してほしい。また3分野連携事業LINE登録者を伸ばせなかった点について、情報の拡大が課題だと考える。 【その他注意点】			

			評価点×3		
F　主要事業の企画・実施・成果	**5カ年計画どおりに事業を実施し、計画通りの成果があったか（評価点×3）**		指定管理者	担当課	評価委員
	1	主要事業の実施 ◆アプローチ方法が効果的であるか			25.8 （満点30点）
	2	主要事業の成果 ◆当該年度の達成目標を達成しているか			
	指定管理者記入欄	【アピールポイント】令和6年度とは異なり、体育館でのイベントもあったため、設立2年目の実行委員にとって大きな挑戦となった。特に、「イベントの趣旨や来場者層を考慮しながら出演者を探し、出演依頼や日程調整を行う」ことと「プログラム作成にあたり、出演者の控室確保、出演順や演奏時間、会場の入れ替えなど全体の流れを考慮し、観客が最後まで楽しめる構成に調整する」ことには大変苦慮し、想像以上に時間と労力を費やした。その中でも、実行委員、出演者、センター職員が協力し、当日を迎えることができた。残念ながら当日は悪天候（雪）に見舞われ、予定通りの運営が難しい場面もあったが、状況に応じて柔軟に対応し、延べ参加人数約950人が訪れたものの、大きな怪我やトラブルなくイベントを終え目標を達成することができた。			
		【改善すべき点･課題等】今回の経験を通して、イベント運営には綿密な準備だけでなく、関係者とのコミュニケーションやチームワークが重要であることを改めて実感した。苦労も多かったが、その分、大きな学びと達成感を実行委員やその他関係者と分かち合うことができた。今後の5年間も音楽を中心とした内容で実施する予定であり、異なる形で実行委員に協力を依頼し、音楽を通じて多くの方に幸せを届けられるよう努めたい。			
	区記入欄	【特記事項】実行委員会のもと、第2回音楽フェスティバルを実施した。演奏者の発掘や連絡調整を綿密に行うことで令和6年度より大規模な音楽体験イベントを成功させ、降雪にも関わらず多くの集客を達成した。指定管理期間を通して利用者に多様な音楽体験事業を提供したことを評価する。			
	評価委員記入欄	【評価すべき点】実行委員会が主体となり、演者の発掘や連絡調整などを綿密に行い、悪天候下でも延べ約950人の大規模な音楽体験イベントを無事成功させた点を評価する。苦慮もあったと思うが、課題が見えたりと令和8年度以降につながった感触が読み取れる。 【改善すべき点】実行委員会の自立は進んだが，担い手の裾野拡大と世代交代の仕組みづくりが今後の課題と考える。 【その他注意点】			

			評価点×2		
G 利用者の満足度（評価点はアンケート調査による）	利用者の満足を得られているか（評価点×2）		指定管理者	担当課	評価委員
	1	運営満足度 ◆職員の接客態度、説明や事務処理の的確さ		4.3（×2）	33.4 （満点40点）
	2	施設維持満足度 ◆施設の清潔さ、使いやすさ、館内表示　など		4.7（×2）	
	3	事業満足度 ◆事業内容の充実、ミニコミ紙　など		4.1（×2）	
	4	利用効果 ◆センターでの活動効果、意欲の向上　など		3.6（×2）	
	指定管理者記入欄	【アピールポイント】講座・イベントを利用目的に選ぶ人の割合や満足度は上昇している。令和7年度はイベントの質と数を充実させたことが、満足度向上の要因と考えられる。初めて施設を利用する方も増えており、アンケートではあだち広報を見て来館した人が最も多く、次いでSNSを見て来館した人も多かった。自由意見には多様な感謝の声が寄せられ、今年度の取り組みの成果を実感できる状況となっている。			
		【改善すべき点･課題等】講座・イベントの満足度は上昇しているものの、利用者からの要望も寄せられている。今後は、できる範囲で改善策を検討し、内容や運営方法の工夫を通じて、より多くの利用者が満足できるよう取り組む。			
	区記入欄	【特記事項】利用者アンケートにおいて、接客態度や事業内容をはじめ、多岐にわたる感謝の意見が寄せられている。「運営満足度」および「施設維持満足度」が令和6年度より向上している点を踏まえ、日頃から利用者の視点に立った、配慮に富む施設運営を継続してきた成果として評価する。			
	評価委員記入欄	【評価すべき点】接客・清潔さとも満足度が高く、センター・図書館いずれも満足・やや満足の合計が9割を超えている。多くの感謝の意見もあり、利用者の視点に立った施設運営を行っていると評価できる。 【改善すべき点】 【その他注意点】満足度が増えている一方、利用者の要望も増えている。利用者が施設に求める水準が高まった証拠と考えられる。			
合計点			108.0（満点130点）	137.4（満点=170点）	163.0（満点=200点）

特記事項（評価委員会による総合評価を記入）	重度障がい児支援施設への移動図書館や、外国にルーツを持つ子ども向けの日本文化体験プログラムなど、地域学習支援において広汎な企画を実施できており、葛藤されながら前向きに進まれている感じがよくわかった。前年度減点となった誤植も再発していない。主要事業についても5カ年計画の最終年度として実行委員会主体の音楽フェスティバルを実現し、人材の発掘・育成から運営体制の確立へと段階的に発展した成果は高く評価できる。図書館について、参加型の特集や地域連携事業が充実している一方、施設間の相互周知が今後の課題である。

【評価委員会評価結果】

評価委員会評価結果	得点	評価
	163	A−

⇒ ﾗﾝｸﾀﾞｳﾝ 有（無） ⇒ 総合評価 A−

※評価結果は評価委員会が行う。
※小数点以下は切り捨て、整数とする。

【指定管理者への改善要望】
該当項目なし。

<評価委員会評価基準>

評点		評価基準						
満点	標準点	75%以上			～			54%以下
		A＋	A	A−	B＋	B	B−	C
200点	120点	180点以上	167点以上 179点以下	150点以上 166点以下	134点以上 149点以下	119点以上 133点以下	109点以上 118点以下	108点以下
得点率		90%以上	～	83%以下	67%以上	～	59%以下	54%以下

※「標準点」･･･評価項目が全て「3」（水準クリア）の評価を受けた場合の得点。
※「A」は満点の0.75倍以上（小数点以下切上）、「C」は満点の0.54倍以下（小数点以下切捨）とする。